

地理・歴史

- 面積
約47,803km²（全国の約2.5%）
- 人口(2022年)
4115万人(全国2位)
- 州都
スラバヤ市（人口2,893,698人(2023年)）
- 州内自治体数
38縣市(9市29県)
- 種族(2010年)
ジャワ 80.7% マドゥラ 17.5% 中華系 0.7%
- 宗教(2010年)
イスラム96.4% キリスト2.3% ヒンドゥー0.3% 仏教0.2%
- 言語
インドネシア語、ジャワ語、マドゥラ語など
- 時間帯
日本時間 -2時間(インドネシア西部時間)

■ ブランタス川、ソロ川が州内中央を流れ、南部にはプロモ山など多くの山を擁し、肥沃な土地に恵まれている。他方、北東部のマドゥラ島は、水源に乏しく、米作適地は少ない。

■ 11～15世紀、クディリ、シンガサリ、マジャパヒト等のヒンドゥー王朝が栄え、多くの遺跡を残している。最後のヒンドゥー王朝マジャパヒト王国は14世紀に最盛期を迎えた後、衰退。その後、中部ジャワに興ったイスラム教国のマタラム王国の支配を経て、18～20世紀、オランダの植民地となった。

■ 第二次大戦終戦直後、東ジャワ州スラバヤでの英軍との戦い(スラバヤ戦争)がインドネシアの独立戦争の発端となり、スラバヤは英雄の都市と呼ばれる。



行政・政治

- 東ジャワ州
知事代行：アディ・カリヨノ(前東ジャワ州官房長)
※任期は、2024年～2025年。
- スラバヤ市(州都)
市長：エリ・チャフヤディ(元スラバヤ市開発計画局長)
※任期は、2021年～2025年。
- 州設立日：1945年10月12日
- 東ジャワ州は、スカルノ初代大統領、アブドゥルラフマン・ワヒッド第4代大統領、ユドヨノ第6代大統領など多数の政治家を輩出。
- 海軍第二艦隊司令部(※ジャワ島東部、バリ、カリマンタン、スラウェシ海域を管轄)及び陸軍第五陸軍管区司令部がスラバヤに置かれている。

■ 州議会(全120議席)(2019-2024)

※括弧内は2024年9月に就任する議員の議席

政党名	議席数
闘争民主党(PDIP)	27 (21)
民族覚醒党(PKB)	25 (27)
グリンドラ	15 (21)
民主党(PD)	14 (11)
ゴルカル党	13 (15)
ナスデム党	9 (10)
国民信託党(PAN)	6 (5)
開発連合党(PPP)	5 (4)
福祉正義党(PKS)	4 (5)
ハヌラ党	1 (0)
月星党(PBB)	1 (0)

経済

■ 州内名目GDP 2,953兆ルピア（全国2位(14.2%)/2023年州統計局）
一人当たり名目GDP 71百万ルピア（2023年州統計局）

■ 経済成長率(対前年比)

	2023	2022	2021	2020	2019	2018
全国	5.05	5.31	3.70	-2.07	5.02	5.17
東ジャワ	4.95	5.34	3.56	-2.33	5.53	5.47

■ 主な産業
製造業、稲作、精糖、たばこ、セメント、化学、造船 等

■ 貿易(2023年/州統計局 ※石油・ガス除く)
輸出 206億ドル (1) 中国(14.5%) (2) 米国(13.5%) (3) 日本(13.0%)
輸入 226億ドル (1) 中国(29.5%) (2) 米国(6.9%) (3) ブラジル(6.0%)

■ 外国直接投資(2023年) 70.2兆ルピア
(1)米国 (40.1%) (2)日本 (29.9%) (3)シンガポール (7.2%)

■ 全国第2の都市といわれるスラバヤ市、コンテナ取扱量で全国2位(2022年時点で全世界51位、東京は46位)の規模を誇るタンジュン・ペラク港を擁し、インドネシア東部地域の経済活動の中心的役割を担っている。

■ インドネシアの米倉とも言われており、農業面では灌漑設備が整備された穀倉地帯が各地に広がり、水稻を初めとする穀物栽培が盛ん(米、さとうきび、とうもろこしは生産量全国1位)。一方、北東部のマドゥラ島は水源に乏しく、米作適地は少ないが、塩田による製塩が盛ん。

■ 州内の工業団地(パスルアン県のPIER工業団地、モジョルト県のNGORO工業団地等)などには、多数の日系企業が操業。最低賃金は上昇傾向にあり、インフラなどは比較的恵まれている。

教育・文化

■ 主要大学

- ・国立アイルランガ大学(UNAIR)
- ・11月10日工科大学(ITS)
- ・スラバヤ国立大学(UNESA)
- ・国立ブラウイジャヤ大学(UB)
- ・スラバヤ電子工学ポリテクニク(PENS) など

- 日本語学習者(2021年国際交流基金調査)
 - ・州別では全国2位の日本語学習者(約9.1万人)
 - ・国別で中国に次ぐ2位(全国で約71.1万人)

■ 主要メディア

- ・ジャワ・ポス(Jawa Pos)紙
- ・ラダル・スラバヤ(Radar Surabaya)紙(Jawa Pos系)
- ・スルヤ(Surya)紙
- ・スラバヤ・パギ(Surabaya Pagi)紙
- ・スアラ・スラバヤ(Suara Surabaya)(ラジオ局)

- 大多数の住民がジャワ人であり、イスラム教徒。また、国内最大のイスラム団体NUの本拠地であり、ジャワとイスラムの色彩が強い。

- 文化圏として、「アレック」地域と称されるスラバヤ周辺、「マドゥラ」(マドゥラ島)、「マタラム」(新マタラム王国(17世紀)の影響を受けた中ジャワ寄りの近い地域)、東部の「タパルクダ(蹄鉄の意)」地域(新マタラム王国の影響を受けていない東部地域)に分けられることが多い。

■ 主な観光地

- ・幻想的な景観のプロモ山(パスルアン県など4県の県境)
- ・ブルーファイアー(硫黄)のイジェン山(パニユワンギ県とボンドウオソ県との県境)
- ・マドゥラ島のカラパン・サピ(競牛)
- ・マジヤパヒト王朝時代遺跡群(モジョクルト県トウロウラン、ブリタール県プナタラン寺院など)
- ・スカルノ初代大統領廟(ブリタール市) 等

日本との関係

■ 戦前

オランダ領東インド(蘭印)と呼ばれた戦前の時代から、スラバヤには多くの日本人が在留し、銀行、雑貨商の他、写真館、自転車屋、万年筆屋等の技術職の店を営んでいた。1920年(大正9年)、日本帝国領事館が開設され、1925年(大正14年)には蘭印(当時)最初の日本人国民学校として(世界で第3番目)開校(小説家の故有吉佐和子氏は戦前の在校生徒)。1938年には全校児童数117名との記録が残る。

■ 日本人会(東ジャワ・ジャパン・クラブ)

1973年4月に設立。日本人学校の維持運営、会員親睦行事、日本語を学習する学生に対する奨学金支給事業、会員向け月刊会報誌「ブランタス」の発行や図書の貸し出し等を行っている他、スラバヤ市内にある「日本人墓地」、マラン市内の「マラン日本人慰霊碑」の管理も行い、定期的に墓参・参拝を実施。会員数401名(2024年6月)。

■ スラバヤ日本人学校(SJS)

1976年に日本語補習校として再開校後、1979年に日本政府から全日制学校として認可される。1980年スラバヤ市内のダルモ地区に建設されたダルモ校舎時代を経て、1995年1月からクティンタン地区に現在の校舎を建設。児童生徒数は33名(2024年6月)。

■ 留学生交流

国立アイルランガ大学(UNAIR)、11月10日工科大学(ITS)には元日本留学生の教員が多数。東ジャワ・インドネシア元日本留学生協会(プルサダ)が留学相談に協力。

■ 姉妹都市

1984年	東ジャワ州＝大阪府	30周年(2014年)を機に学生交流開始。
1997年	スラバヤ市＝高知市	2003年より「スラバヤよさこい祭り」開催(注:新型コロナウイルスの影響により、2021年及び2022年は中止。)
2012年 (環境姉妹都市)	スラバヤ市＝北九州市	スラバヤ市内に北九州市協力のリサイクル型廃棄物中間処理施設あり。

経済協力

- 1960年代から40年の長きにわたり実施された「ブランタス河総合開発プロジェクト」は、日本とインドネシアの技術移転のシンボル「ブランタス精神」として語り継がれている。

■ 主な技術協力案件

「スラバヤ工科大学情報技術高等人材育成計画プロジェクトフェーズ2(2012年～2014年)」

■ 主な草の根・人間の安全保障無償資金協力・草の根文化無償資金協力

- 「東ジャワ州パチタン県におけるイスラム小学校校舎建設計画」(2023年)
- 「東ジャワ州ガンジユク県におけるイスラム小学校校舎建設計画」(2023年)
- 「東ジャワ州ブリタル県におけるイスラム中学校校舎建設計画」(2023年)
- 「ドクター・ストモ大学日本語学習機材整備計画」(2022年)
- 「東ジャワ州トゥバン県におけるイスラム小学校校舎建設計画」(2022年)
- 「東ジャワ州トゥルンアゲン県におけるイスラム小学校校舎建設計画」(2022年)など